内海ITU事務総局長

ジュネーブ便り

（2003年12月）

◎内海総局長から

とにかくサミットを開催することができました。各国の元首レベルの方たちが、初めて一堂に会し、情報社会の建設を論じ合い、しかも、その原則を合意し、行動計画をつくったのですから、その意義は誰も否定できないと思います。また、専門機関が開催して成功した初めてのサミットです。市民団体のデモも受けず、むしろ彼らの積極的な参加を得た初めてのサミットでもありました。いろいろな意味で、歴史に記録される足跡を残せることができたことは、望外の喜びです。

◎12月の事務総局長の主な動向

WSIS基本宣言および行動計画の準備プロセス

WSIS基本宣言および行動計画の案文を確定するための第3回WSIS準備会合が、11月10～14日に再度召集されました。ICT技術が社会開発や生活向上のために重要なツールであるとの共通認識が統一され、そのためのインフラ整備が重要であることもまとめられました。ただ、基本宣言や行動計画で取り上げている項目が各国の情報通信政策に深く関連し、機微なことから、インターネットガバナンス、基金問題、セキュリティ、知的財産権、人権およびメディアなどは、まとめる方向は見えつつも案文を確定するには至りませんでした。

そのため、再度、12月5～6日に準備会合を召集することとして、それまでにスイス政府がホスト国として案文とりまとめのために関係諸国らと協議することとなりました。メディアやインターネットガバナンスについて強硬な態度をとっていた中国に、スイス大統領が訪問するなど、スイス政府はホスト国の威信にかけて行動していました。

12月5～6日の会合では、各国が深夜まで議論して、基金問題以外の部分については案文をまとめ上げることができました。基金問題は、デジタル・デバイド解消のための新たな基金設立を明文化したい途上国と、既存の基金制度を有効活用すべきという先進国とで議論が続き、最終的にはサミット開幕の前日に案文が合意できました。

WSISサミットイベント

WSISは、約2万人が出席する大きなイベントですので、各国政府、関係団体が情報社会に関するワークショップや展示会などのサミットイベントを開催しました。150以上のサミットイベントがありました。

スイス政府は、展示会とフォーラムで構成されたICT4DをWSIS会場内で開催しました。また、フランスのリヨン市では、世界の地方自治体よる情報社会サミット（Cities e World）が開催されました。また、Webが生まれた欧州原子核研究機構（CERN、ジュネーブ）では、情報社会における科学の役割について議論するワークショップが開催されました。

ITUは、パートナーシップを結んでいる国々と協力して、情報社会への理解を深めてもらうための展示ブースを設置しました。日本からは総務省がWSIS会場内で日本のケータイ文化を紹介するワークショップを開催しました。

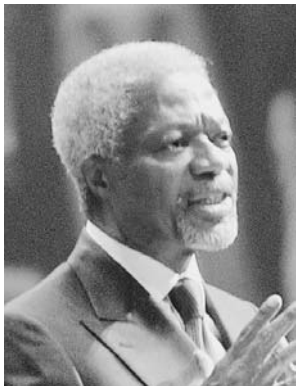
12月10～12日　世界情報社会サミット（ジュネーブ、ITU）

世界のトップリーダーたちが集まり、「社会開発および生活向上を可能にする情報社会を構築する」、「生産性を向上させ経済発展のためにICTが重要である」、「デジタル・デバイド解消が必要である」との共通ビジョンを確立しました。また、2015年までに世界の村々をネットワークで接続するなどの世界的な目標も合意しました。

今回の世界情報社会サミットは、ITに関連してトップリーダーが議論した世界初めてのサミットで、ITUだけでなく世界的にも歴史的なイベントとなりました。

国連のサミットをITUが主導することは、ITUにとっては過分な負担となりましたが、ITUの職員たちは誇りを持って、このサミットの成功に向けて徹夜もいとわず献身的な準備を進めてくれました。

今後、今回まとめられた行動計画を各国政府および関係団体が実施に移すことで情報社会の構築が進むことを期待しています。2005年11月には、今回の行動計画の実施の検証、特に開発に焦点を当ててチュニジアにおいてWSIS第2フェーズが開催される予定です。ITUとしては各国政府と連携しつつそのリード役を務めていく所存です。



世界中の市民が参加できる情報社会を：
アナン事務総局長

サミット開催国元首：
クシュパンスイス連邦大統領（当時）

ブロードバンド、ユビキタスネットワーク社会の実現を：麻生総務大臣